



税金は縁の下の力持ち

大田区立南六郷中学校 三年 櫻田 隆之介

僕が税と言われてまっさきに思いつくのは、消費税だ。毎日買い物をする度に、+%金額が加算される。そんなに沢山のおこづかいをもらっていない僕に、+%の加算は痛い。なぜ、払わなくてはならないのか？コンビニで百田のアイスを買って百十田になる。十回買ったなら、もう一個アイスが買える。僕のもう一個のアイスはどこにいったんだろう。疑問に思った僕は、腹立たしきで、消費税の使い道を調べてみた。

消費税は、一般、社会保障が四割、社会保障(高齢者)が一・九割、借金対策が一・六割、地方分が一割、社会保障(子供若者)が〇・八割、経費が〇・七割と書かれていた。田クラブにはそう書かれていたが、僕のまぼろしのアイス一本がどうなったのかは、理解できなかった。これではくやしだけなので、せめて僕に関係のあるような子供若者への社会保障とは何なのか、自分なりに考えてみようと思う。

実際の財源が消費税なのかは分からないが、子供である僕には無料で暮らしを支えてくれている制度は多いように思う。公立の中学校の授業料は無料だと親に聞いたことがある。学校で学ぶためには、まず、学校という場所が必要になる。また、電気がつかないと暗い中学はなければならぬ。エアコンがなかったら、授業中に具合が悪くなる生徒が続出して

くじこになるだろう。僕が楽しみにしている給食も、無料になったと母が喜んでた。他にも親が払っていないのに、僕に使われているお金は、たくさんありそうだ。では、誰が僕に対するかかった経費を払ってくれているのか？それは税金だ。僕の身近な税といえば消費税だが、親の会話を聞いていると沢山の税金の種類があることは分かる。そのお金が、僕の日常に使われているのだと思う。

税金について改めて考えてみると、日常を過ごす中で自分が費用を払わずに利益を受けている事のほとんどは税金で賄われていることが分かった。

なぜ、学校へ通つための費用が無料なのか、給食が無料なのか。それは、僕が子供だからだ。まだ何者でもない僕に、社会がお金を払うのは、未来の僕が期待されているからだと思う。僕が学んで、沢山のものを身に付けて社会に出ていく。そうすることが、今の無料の対価となる。そして僕が働き、税金を払うことで、また次の時代の子供を支援していく。その循環が、未来を作っていくことになると思う。

ニュースを見ると、日本の将来は暗いと言われている様に感じる。でも、僕は暗い未来を感じながら生きていくのは嫌だ。今与えられている、特権、子供に対しての投資を存分に受け入れて、利用して明るい未来を作り出し生きていく。僕はそういう風に生きていきたい。